

2024年 水俣学講義

水俣病事件の歴史と現在

熊本学園大学
社会福祉学部
花田昌宣

1

水俣病68年

- 何が68年なのでしょう
 - 発生公式確認、「1956年」から数えて68年
 - すなわち、68年の苦難の歴史
- 今日お伝えしたいこと
 - 自分の経験と重ねて
 - 発生・拡大・補償と救済の過ちの歴史
 - 差別の歴史としての水俣病

2

熊本学園大学

自己紹介

- 熊本学園大学 水俣学研究センター
 - 社会福祉学部シニア教授
 - 大学院社会福祉学研究科教授
- 企業組合エコネットみなまた代表理事
 - (社福) くまもと障害者労働センター理事長
 - 熊本県部落解放研究会会長
- 水俣病との出会いは1974年：学生時代
- 原田正純先生と「水俣学」を構想し、構築中。

3

私と水俣病の最初の関わり

- ▶ 水俣病患者の闘争に触れたこと
 - 1973年判決以後、政治の季節の終わりに
 - 水俣病の映画、闘争の記録
- ▶ 「県外の患者」との付き合い
 - 足下の水俣病を!!
 - 東海地方、関西地方の患者たちとの出会い
- ▶ 見捨てられていた患者たち
 - 患者の「発掘」

4

熊本学園大学

本日お伝えしたいこと

人類の経験した公害、水俣病の負の遺産（失敗の経験）に学び、将来に活かす：水俣学の課題

- ▶ 水俣病の60数年の歴史を学び、今なお残されている課題を理解すること
- ▶ 水俣病という公害が、学校の中で習った過去の問題ではなく、いまなお終わっていないこと
- ▶ ひとりひとりの暮らしのあり方を考え直すきっかけを得ること

5

熊本学園大学

なぜ、今、MINAMATA

正式発見から68年を迎えようとしている
1973年水俣病が公害でありチッソKKの加害責任が
裁判で認められた
2004年最高裁判決によって行政責任が認められ、
2013年国の認定基準の過ちも認められ、
行政の水俣病病像、認定制度や救済策が破綻した。
水俣病患者の苦悩と苦闘は続いている。
風化させないために、
今、検証して未来へつなごう

6

水俣病をどう理解しどう伝えていくか：

- 熊本学園大学における20年の経験から
- 熊本の子どもたち:皆さん方も水俣を訪問したはず
 - 「水俣に学ぶ肥後っ子教室」小学5年生時の水俣訪問：
 - 水俣病被害をどう受け止めているか???
- →ハンセン病
- →人権同和教育
 - 何を覚えているか、何を分かっているか
 - 主体的受け止め？正しい知識？
 - 差別発言事件？
- 教師たちの理解は？

7

学校教育の現場では

- 水俣病授業のパターン
- 1. 水俣病はなぜ起きたか
 - チッソの行ったこと
 - 漁業と水俣病や漁民の暮らし
- 2.被害者の苦勞に耳を傾けよう
 - 患者の声を聞く、患者の文章を読む
- 3.水俣病の経験を生かそう
 - 環境を大事にしよう、環境モデル都市、もやい直し
- 「暗い・辛い話ばかりではなく明るい将来の話が欲しい」と学校教師はいうけれども。被害者たちは果たしてくらい生活を送っているのか？想像力の欠如

8

日本の公害そして水俣病とは何か

- 四大公害事件といわれるもの
- 「四大公害訴訟」であって、1960年台後半から1970年代に注目を浴びたもの
 - 水俣病 原因物質は？ 被害の場所は？加害者は？
 - イタイイタイ病原因物質は？ 被害の場所は？加害者は？
 - 新潟水俣病 原因物質は？ 被害の場所は？加害者は？
 - 四日市ぜんそく原因物質は？ 被害の場所は？加害者は？
- ほかに、土呂久砒素公害鉱毒事件、足尾銅毒事件……。

9

【水俣病とは】
それまで人類が経験したことのない公害事件

【環境汚染による公害病】 一企業(チッソ)が、産業活動によって生み出された有機水銀を含む有害物質を、不知火海に未処理のまま大量に排出し、環境を汚染し、食物連鎖を経て、人体に取り込まれて起きた公害病

【身体的被害】 環境汚染が、重篤で大規模な人体被害をもたらしたものの。中枢性の神経疾患が主要症状である。

10

【胎児性水俣病】 胎盤を通して汚染、水俣病という障害を持って生まれてくるもたらされるという未曾有の経験もしました。

【汚染の広がり】 汚染そして被害は、水俣湾から対岸の島々まで不知火海全体に広がっている。

【被害者数は？】 国の認定基準で認定された人（ 人）、国の基準を満たさないが健康被害を受け、医療給付を受けている人、認められないまま亡くなった人（ 人）、まだ隠れている人……（ 人） **全体像は不明!!!**

11

2018年の出来事から

水俣病慰霊式とチッソ社長の暴言

- ・ 水俣病は終わったか
- ・ 水俣病被害者救済は終わったか
- ・ 水俣病の始まりは？



12

2018年5月1日の発言に対するお詫びと撤回
チッソ株式会社社長後藤真吉

- 本年5月1日に開催された水俣病犠牲者追悼式後の私の発言により、被害者の方々に大変な迷惑のなかを殆く多くの方々に不承くお詫びを申し上げます。
- 当社におきましては、水俣病補償を至上の命題に掲げ、その完遂のため必死の努力を続けて参りました。水俣病被害者追悼式後の発言の判定、公認終了の発表が平成26年8月9日に福岡県からあり、被害の支払いを放棄したと誤解されていることをごさいます。このことから、一定の区切りがついていることを申し上げます。
- そのような発言でございましたが、私の言葉足らずによりこのような事態となりましたことを深く反省し、「救済の終了」を誤のて「生存者」の方々に不承の誤を考へてまいりました発言を撤回いたします。
- 生存者の方々に対する継続補償はもとより、「公害健康被害の補償法」も法律上の義務に準じて参ります。特別措置は発生してまいりまで通り善処に对应して参る方針に変わりはなく、今後も水俣病補償完遂のため努力を續けて参ります。

13

「救済終了」発言の何が問題か

- 1) 水俣病は終わった
 - 2) 救済対象となる被害者はもういない
 - 3) チッソは補償責任を果たした
- 熊本の市民として
 - 水俣病がどうなっているのかの理解が必要

14

水俣はどこにあるか：
東京（中央）と水俣（地方） 国家による差別



15

水俣とはどこにあるか（県庁からも遠い）



16



17

水俣病の発生と被害の拡大

水俣病被害の発生機序とその経過

- ▶ チッソ（株）による有機水銀を含み有毒廃水の無処理放出 いつから？いつまで？
- ▶ それによる海の汚染
- ▶ 魚貝類の汚染と流通、摂食
- ▶ 行政の放置：規制しなかったこと
- ▶ 健康被害と差別の目 被害の社会的側面

18

チッソの百間排水口の水銀ヘドロ (1970年代の写真) (ひゃっけん、はいすいこう)



ここから工場の廃水が無処理で排出され汚染が拡大した

19

水俣病発生の公式確認

1956年5月1日 新日窒付属病院細川一院長が、原因不明の疾患発生と水俣保健所に届け出 田中静子・実子姉妹の発症



細川医師

新日窒付属病院外観

20

1956年5月1日に発生が報告された患者自宅



21

その時(水俣病初期) 水俣市では

• 水俣市長は、水俣▶チツソを守るといった

- 1949年から1970年 橋本彦七 チツソの元工場長
(うち 58年から62年 中村止 元陸軍中尉)
- 水俣病の拡大を防ぐためにチツソの生産を止めるかどうか、という問題について (昭和30年台)
- 1960年 労働組合選出県議員長野春利 漁民の排出停止要求に対して「製造を止めないように」
提議会として会社に働きかけ(その排水で病気が起きていた。)
- 1971年11月 浮池正基市長、「チツソを守るためには全国の世論を敵に回しても闘う」と水俣市を明るくする市民連絡協議会大会で挨拶

22

この子は宝子です

上村智子さん
21才で他界

23